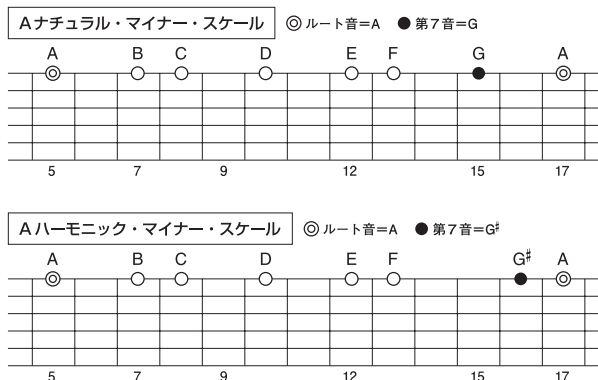


注意点1

ネオクラ界の必修スケール
ハーモニック・マイナー

まずは、右図の2つのスケールをA音(1弦5フレット)から弾いてもらいたい。すぐに気がついたと思うが、Aから数えて7番目の音(ナチュラル・マイナーではG。ハーモニック・マイナーではG \sharp)が半音違う。この違いが2つのスケールの響きの差となっているのだ。ハーモニック・マイナーの方がクラシカルな感じがしないかな? いわゆるネオクラシカル系ギタリストが多用しているスケールが、このハーモニック・マイナーなのだ。ただし、彼らはやみくもにハーモニック・マイナーばかりを弾いているのではない。コードやキーに合わせてナチュラル・マイナーなどを織り交ぜることで、広がりのあるプレイを聴かせているのだ。

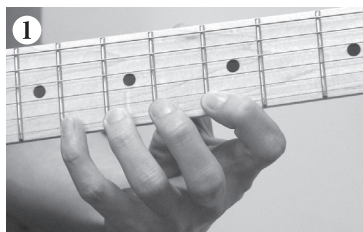
図1 Aナチュラル・マイナー・スケールとAハーモニック・マイナー・スケール



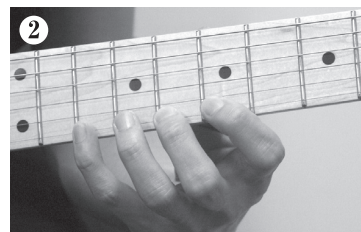
注意点2

3本指1組の
フィンガリングを学ぼう

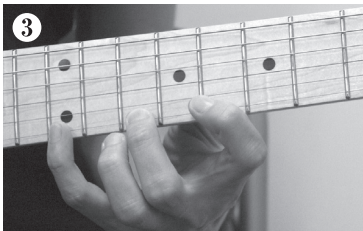
このフレーズを弾くためには、写真①～③の3本指1組のフィンガリング・パターンを覚えておく必要がある。この3つのパターンは、ほとんどのメジャー&マイナー・スケールに対応できるので、必ず覚えておこう。ちなみにハーモニック・マイナーには、このほかにも特殊なストレッチ・パターンが2つ用いられる(図1の1弦12&13&16フレットのパターンと1弦13&16&17フレットのパターン)。しかし、このフレーズでは3小節目からキーが転調(1&2&4小節目=Am、3小節目=Dm)しているので、この2つのパターンは登場しない。とはいえ、ネオクラシカル系が好きな人は、この2つのポジションも弾けるようになってほしい。



1 人差指・薬指・小指の組み合わせ。薬指を立てること。



2 人差指・中指・小指の組み合わせ。一番弾きやすいだろう。

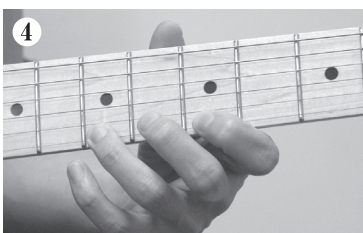


3 人差指・中指・小指の組み合わせ。親指の位置に注意。

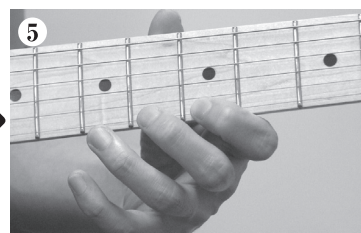
注意点3

フレーズを弾き切る鍵は
人差指の高速移動にあり!

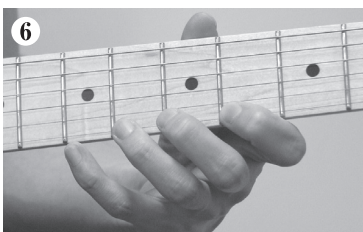
このフレーズは、1音目:人差指、2音目:小指、3音目:中指か薬指、4音目:人差指という順番で弾く4音1セットのくり返しとなっている。ここで注目してもらいたいのは、このセットが人差指から始まり人差指で終わるということ。つまりこのフレーズをきれいに弾くためには、人差指の移動を素早く正確に行なうように注意すれば良いのだ(写真④～⑥)。実際に弾く際には、移動後の人差指(写真⑥)のダウン・ピッキングにアクセントをつけるのが良いだろう。こうすることで4音1セットのスタート音を把握でき、1セットごとのテンポをキープしやすくなる。“4音弾いて1つポジションを進む”という感覚を常に持ちながら弾こう。



4 1弦7fを薬指で押弦。この時点で次の人差指を用意する。



5 人差指による押弦。次の人差指の移動を意識しておこう。



6 人差指を移動させた後は、すぐに小指の準備をしておくこと。